もぎたて通信

令和８年１０月１９日
長崎市立茂木小学校
発行　校長　松尾伸章
ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞｱﾄﾞﾚｽ　www.nagasaki-city.ed.jp/mogi-e/

朝晩の冷え込みが増し、校庭の木々も少しずつ色づく季節となりました。

店先には柿が並ぶ頃ですが、和歌にも詠まれる柿には「柿が赤くなると医者が青くなる」ということわざがあります。柿はビタミンＣがとても豊富で、１個で１日分が摂れるほど風邪予防にすぐれた果物だからです。

さて、学校も「実りの秋」を迎えました。子どもたちがこれまで積み重ねてきた努力が、日々の学習や生活の中で着実に実を結び始めています。

最高に輝いた茂木小学校！



１０月 １４日（水）、茂木小学校のリーダーである６年生が、長崎市小学校体育大会に出場しました。今年度の小体会のスローガンは、前通信でも紹介しましたように「全力で　全員で　最高に輝け」でした。

茂木小学校は、大会前から下級生と職員全員が、全力で６年生を応援していました。そして、６年生は、そのみんなの期待と応援に見事に応えることができました。６年生が小体会で最高の輝きを見せ、チーム茂木小学校は、最高に輝いたのです。たいへんすばらしかったです。

茂木小学校の６年生が出場した球入れ競技及びプレルボール競技は県立総合体育館で、フラッグフットボールは愛宕小学校体育館で開催されました。







【フラッグフットボール】１試合目４５対４０で勝利。２試合目も５１対２２で勝利し、優勝！
【プレルボール】１試合目１５対９で勝利。２試合目も１３対１２で勝利し、優勝！
【球入れ】２０個中①１９個②２０個③２０個を入れて茂木小最高記録！

出場したすべての競技種目で最高の輝かしい姿と成績を残すことができました。特に球入れは、１回目で惜しくも１個落としパーフェクトを逃したものの、その後の２回目、３回目とパーフェクトを決めた姿が圧巻でした。その雰囲気、チームワークの良さに、審判の先生さえも感動されるほどでした。プレルボールもフラッグフットボールも、チームワークで接戦をものにすることができたからこその優勝です。子供たちの最後まで諦めない心、仲間を信じて最後まで頑張り抜く強さがあったからこその結果です。競技中、お互いのチームを応援し、勝利を喜び合うチームワークも輝いていました。

６年生は、９月に入ってから約１か月間半あまり、この小体会の日に向けて自分たちが出場する競技の練習を頑張ってきました。技能面はもちろんのこと、精神面でも様々な学びをしながら、チームとしての力を高めていきました。子供たち一人ひとりの成長過程において、たいへん意義のある取組だったと確信しています

キュビナ活用強化月間

１０月は、キュビナ強化月間です。茂木小学校の目標は、「この１か月間で、一人６００問」以上取り組むことです。

そこで、先週の金曜日に、お昼の放送でキュビナ問題によく取り組んでいる子供が紹介されていました。先週の１６日（金）までに、１年生で一番多い子は、もうすでに２１０９問を解いていました。２年生の一番は２１９２問、３年生の一番は１６２０問、４年生の一番は１８９８問、５年生の一番は１５５８問、６年生の一番は、１７１３問でした。すごいです。６００問どころではありません。桁が違いますね。さて、お子様は、いかがでしょうか？

本校では日々の授業や家庭学習において、AI 学習タブレットソフト「Qubena（キュビナ）」を取り入れた学習を進めています。ご家庭でも「子供がクロムブックで課題に取り組んでいる姿」をご覧になっていることと思います。

なぜ今、学校教育において Qubena のような AI 教材に取り組むのか、その大きな意義を３つの視点から再確認したいと思います。

１．「自分に合った問題」で、効率よく確実に理解を深める

従来の一斉学習では、得意な子には物足りず、苦手意識のある子には難しすぎるという課題がありました。Qubena は、児童一人ひとりの解答データを AI が分析し、「どこでつまずいているのか」を即座に見つけ出します。そして、その子に必要な復習問題や発展問題を自動で出題します。誰かと比較するのではなく、「自分のペースで理解を深められる」ことが最大のメリットです。

２．「わかった！できた！」の達成感が学習意欲を育てる

問題を解いたその場で採点され、解説やヒントが表示されるため、間違えたところを放置せずその場で解き直すことができます。「解けた！」という小さな成功体験の積み重ねが、子供たちの「もっとやってみたい」という自発的な学習意欲（主体的に学ぶ姿勢）へとつながっていきます。

３．蓄積されたデータを、教員による丁寧な個別指導に生かす

クロムブック任せにするのではなく、児童の取り組んだ履歴や理解度は担任をはじめとする教員がリアルタイムで確認しています。「クラス全体でどこがつまずきやすいか」「誰がどの部分で困っているか」を把握することで、授業での補足説明や、個別での声かけ・指導にしっかりと役立てています。

デジタル技術を活用することは、決して紙と鉛筆での学びを否定するものではありません。じっくり考え文章を書くことや、友達と話し合って深める学びと組みあわせながら、子供たちの「確かな学力」を育んでいきたいと考えています。

ご家庭におかれましても、お子様が Qubena に取り組んでいる際には「今日はどんな問題ができたの？」「がんばっているね」と、温かい声かけで応援していただけますと幸いです。

若菜川を眺めて

以前、新聞に「桃太郎はなぜこの三匹を仲間にしたのか。」との記載がありました。ＪＴの広告でした。一見バラバラの三者をなぜ仲間にしたのか。そこには明確な戦略があったのでは、との見解です。チームに多様性を取り入れ、ある種の化学反応を期待していたのではと。

合うはずのない三者が、心を開き、認め合うことで、個性がより発揮できているというのです。確かに、鬼退治の三者は、個性を十二分に発揮し合っています。発揮するのではなく、発揮し合うことでより大きな力となって機能しています。

学校も、多様な子供、先生がいます。同じ目的に向かうとき、どうしても同じ行動を求めてしまいがちですが、それぞれが違いを認め、もっている力を発揮し合える環境を創っていくことが大切です。

広告の最後には、「違うから人は人を想う」とありました。

今後も大切にしていきたい言葉です。